

開催地名	新潟県阿賀野市
開催日時	令和7年9月5日(金) 15:00～16:30
開催場所	阿賀野市役所 保健センター研修室
語り部	石川 恵美子(東京都町田市)
参加者	阿賀野市職員等 88名
開催経緯	阿賀野市として「危機管理課」を独立させて一年余り、防災学の実効性確保のため多々取り組んできたが、同じ市の職員として町田市で様々な取り組みをされてきた石川氏からお話を伺うことで、一人ひとり災害に対する理解を高めてほしい。
内容	<p>(1) 自己紹介と災害対応経験</p> <p>学生時代に東日本大震災を経験し、新宿区のインターネットカフェでアルバイト中に多数の帰宅困難者を受け入れるなど、市民対応の現場を体験した。その後、熊本地震では単独で被災地に入り、避難生活の実態を確認するとともに、現地入りした当日に余震を体験したことから、支援者自身の安全確保の重要性を身をもって認識した。町田市役所入庁後は防災課に所属し、西日本豪雨の際には倉敷市に派遣され被災地支援を行い、市内においても複数回の台風や豪雨に伴う避難対応を経験。こうした経験を通して、防災意識向上プロジェクトにおいて「語り部」として活動するに至った。</p> <p>(2) 令和元年東日本台風(台風19号)の概要</p> <p>2019年10月、台風は伊豆半島に上陸し、関東・東北地方を中心に広域で記録的な豪雨をもたらした。神奈川県箱根町では期間雨量1001.5mmを観測し、全国17地点で500mmを超える豪雨となった。また、東京都江戸川臨海では最大瞬間風速43.8m/sを記録し、河川の氾濫や土砂災害、さらには広範囲に及ぶ停電や断水など、都市部を含めて全国的に甚大な被害が発生した。</p> <p>(3) 町田市の事前対応</p> <p>台風上陸の数日前から臨時気象情報を踏まえて複数回の事前対策会議を開催、会議ごとにその時点の雨量の想定や指定避難所(以下、「避難施設」)開設のタイミングを想定した時系列の資料を共有し、各部の人員確保や体制整備を促した。避難施設については収容人数に応じて第一段階と第二段階に分類し、段階的に開設できる体制を整備するとともに、要配慮者の避難を考慮して雨が降り始める前、かつ明るい時間帯の開設を基本とした。さらに公共交通機関の計画運休情報を収集し、帰宅困難者が発生する可能性を事前に把握した。</p>

(4) 台風接近時の市の対応

台風通過の前日には災害対策本部を設置し、全庁体制での対応を開始した。17時には市全域に避難情報を発表し、5万世帯以上を対象とした。避難施設では食料や毛布などの物資を配布したが、大規模な震災とは異なり施設内の物資を全て配布することは見込まれなかったため、食料については賞味期限が近く、予め市庁舎に引き上げていたものを対応職員の出発時に手渡し、それを避難者に提供した。また市職員は交代制で勤務し、数日間にわたる長期対応を前提とした体制を構築した。さらに、河川水位の急激な上昇を受け、12日朝には警戒レベル4の避難勧告を発表し、境川の複数の水位観測地点が氾濫危険水位を超過する事態となった。

(5) 教訓

対応職員への振り返り調査を実施したところ、様々な教訓があった。避難施設においては、第一段階の施設のみでなく、全ての施設で予め施設管理者と市の開設担当者間で鍵の保管場所や使用できるスペースの事前確認をするべきという意見があった（運用を見直し、現在では解消されている）。また、避難者の所定の職員のみでは避難者の受入対応が間に合わなくなった時間帯があり、交代要員を予め配置してほしいという声からあった一方で、部の独自判断で予め交代要員を一緒に向かわせたケースもあり、それらの施設からは避難者の増加にも対応できたという声があった。この他、後処理の要員として、避難施設に残置されたごみの回収や分別のための交代要員を導入するべきという声があった。

各部における反省として、人員の追加投入の指示があったものの、公共交通機関の運休ギリギリのタイミングであったことから、召集基準の見直しの声が上がった。また、現場の安全確保が確実でない中で土砂崩れ現場に職員が留まったケースや、土のうの提供要請のため雨が強い中で補給作業を行わざるを得ないケースがあり、職員の安全確保について考えるべきという意見があった。

最後に、災害対策本部で対応した講師の視点で感じた教訓がいくつかあった。まず、重要な伝達や共有事項がある際には、指揮監督をしている者が職員をすぐ近くに集合させ、口頭で簡潔に確認事項を復唱して伝達していた。この動きは、状況が刻一刻とアップデートされる災害対応において非常に有用で、かつ非常に簡単にできる取り組みであった。一方で、避難施設を閉鎖し、市の態勢を解除した後の受電対応は、前日からの泊りの職員ではなく、更に次の交代要員を投入すべきであった。また、将来への引継ぎとして、記録を残すことは非常に重要なことだと感じた。現に、この講演内容をまとめ、お話しすることは、私の記憶だけでは不可能であった。いつ、何があったかという情報を、それを認識した「覚知」の時刻と、発

	<p>生した「実時刻」を混同せず併記して記録すること、これがとても重要であることを、対応全体を通して感じた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>開催地より</p>	<p>阿賀野市はここ 30 年程人的被害や建物被害を受けなかった地域のため、いざ災害が発生したという際に人員配置等々、こういった対応になるのかをイメージしきれない部分があった。今回お話いただいた町田市での対応を参考に災害対策本部の体制、各課での割り当て業務の見直し作業、避難所での受け入れ態勢等、市の対応力を少しずつでもあげていきたい。</p>